

2014年3月27日

九州新幹線全通3年後の利用状況調査

株式会社 鹿児島経済研究所

【調査結果の要点】

●居住地

- ・ 他県居住者の利用割合は50.8%で、本県居住者の利用割合49.2%を上回り、1年前調査（2013年3月）の50.9%とほぼ同数だった（図表1）。
- ・ 山陽新幹線沿線居住者の利用割合は8.9%となっており、1年前調査の10.1%から減少した。また、鹿児島県内居住者の県内移動は薩摩川内市（1年前6.9%→今回7.4%）、出水市（同4.5%→7.2%）ともに前回調査から増加している。

●利用目的

- ・ 他県居住者の利用目的は「ビジネス」が37.0%と最も多く、「観光・レジャー（29.2%）」を上回った（図表3）。一方で山陽新幹線沿線だけを見ると、「観光・レジャー」が40.3%と最も多く、「ビジネス」の27.9%を上回った（図表10）。

●利用頻度

- ・ 利用頻度をみると、調査対象全体では「初めて」が10.9%となり、1年前調査の15.5%から4.6^{ポイント}減少した（図表5）。本県居住者に限ると「複数回利用」「定期的にご利用」「ほぼ毎日利用」の割合が9割を超え、日常の移動手段として定着している。

●日帰り・宿泊状況

- ・ 他県居住者の「観光・レジャー」での有料宿泊は84.5%と、全通以来高い水準を維持している（図表7）。一方で、滞在期間中の消費額は総額で2万3,719円となり、1年前調査の2万7,087円から減少した（図表8）。

株式会社 鹿児島経済研究所

【調査概要】

■調査目的

本調査は九州新幹線の利用状況を把握し、今後の観光振興などに生かしてもらうことを狙いに毎年3月に実施している。全通から3年が経過した時点で、九州新幹線の利用状況にどのような変化が起こっているか調査し、県内企業の事業活動などに役立ててもらうことを目的とした（3月調査としては10回目）。

■調査実施日

2014年3月5日（水）、7日（金）、8日（土）、9日（日）
の4日間、9：00～10：30、14：00～15：30、18：30～20：00の
各時間帯

- 調査場所 鹿児島中央駅の新幹線改札内コンコース
- 調査対象 調査期間中の九州新幹線乗降客から無作為抽出
- 有効回答 1,768件
- 調査方法 面接による直接聞き取り

【調査結果】

1. 居住地

- ・ 他県居住者の利用割合は50.8%で、本県居住者の利用割合49.2%を上回り、1年前調査（2013年3月）の50.9%とほぼ同数だった（図表1）。
- ・ 山陽新幹線沿線居住者の利用割合は8.9%となっており、1年前調査の10.1%から減少した。
- ・ 本県居住者の目的地をみると、県外が6割を超えている。県外のうち、九州外の割合が11.5%となっており、そのうち山陽新幹線沿線は7.1%だった（図表2）。また、県内移動では薩摩川内市（1年前6.9%→今回7.4%）、出水市（同4.5%→7.2%）ともに前回調査から増加している。

2. 利用目的

- ・ 利用目的別にみると、調査対象全体では「ビジネス」が33.8%と最も多く、次いで「観光・レジャー（23.0%）」となった（図表3）。
- ・ 本県居住者の利用は「ビジネス」が30.6%と最も多く、次いで「観光・レジャー（16.7%）」「通勤・通学（16.1%）」となった。
- ・ 他県居住者の利用目的も「ビジネス」が37.0%と最も多く、「観光・レジャー（29.2%）」を上回った。全通以降、他県居住者の「観光・レジャー」での利用割合は減少傾向にある。一方で、山陽新幹線沿線については「観光・レジャー」が40.3%と最も多くなっている（図表10）。

- ・ 本県居住者の利用目的を移動別にみると、県内移動では「通勤・通学」が 41.4%と最も多い（図表 4）。次いで「ビジネス（15.7%）」「買い物（10.2%）」となっている。また、「その他」も 19.1%となっており、「冠婚葬祭」や「通院」、「親戚・友人に会う」などが挙げられた。県外移動では「ビジネス」が 39.5%、次いで「観光・レジャー」が 21.9%だった。

3. 利用頻度

- ・ 利用頻度をみると、調査対象全体、本県居住者、他県居住者のいずれも「初めて利用」とした割合は 1 年前調査より減少した（図表 5）。また、本県居住者の利用頻度を移動別にみると、県内移動においては「ほぼ毎日」が 43.8%と最も多く、従来の調査結果と同様に、九州新幹線は通勤・通学など日常の移動手段として定着している（図表 6）。

4. 他県居住者の日帰り・宿泊状況

- ・ 他県居住者の「観光・レジャー」での有料宿泊の割合は 84.5%と全通以来、高い水準を維持している。一方で、日帰りは 12.0%だった（図表 7）。
- ・ 「ビジネス」での有料宿泊は 62.0%となり、1 年前調査から 6.8^{ポイント}増加した。全通以来、日帰りのウエートが高まっていたが、有料宿泊が再び増加に転じている。

5. 他県居住者の本県における消費額

- ・ 他県居住者の本県における消費額は、合計で 2 万 3,719 円だった（図表 8）。利用目的別にみると、「ビジネス」では 1 万 7,040 円、「観光・レジャー」では 3 万 6,953 円となっており、観光客の消費額はビジネス客の消費額の 2 倍強となっている。

6. 鹿児島を訪れた回数

- ・ 他県居住者の来鹿回数は、「5 回以上」が 71.5%と 7 割を超え、「初めて」は 10.2%となった（図表 9）。
- ・ 利用目的別にみると、「ビジネス」では「初めて」が 2.0%と 1 年前調査の 9.7%から 7.7^{ポイント}減少、「観光・レジャー」でも「初めて」が 27.5%と 1 年前調査の 32.0%から 4.5^{ポイント}減少した。
- ・ 山陽新幹線沿線をみると、過半数（59.3%）が「5 回以上」鹿児島を訪れたと答えており、全通を機に当該地区との往来が活発になっている様子が見えてくる（図表 10）。

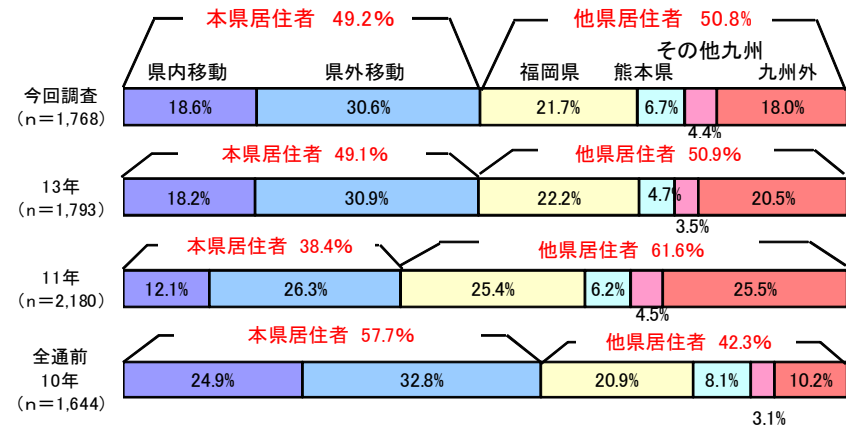
7. 県外観光客へのアンケート

- ・ 目的地は「鹿児島市（64.8%）」が最も多く、「指宿（38.3%）」「霧島（8.7%）」「知覧（5.5%）」「種子屋久（1.6%）」と続く（図表 11）。また、目的地を「鹿児島市」と回答した観光客の半数以上が桜島（53.2%）を訪れている（図表 12）。
- ・ 観光目的は「温泉」が 44.4%と最も多く、次いで「自然・景観（32.3%）」「名所・旧跡（22.6%）」となっている（図表 13）。
- ・ 情報収集手段は「インターネット（45.3%）」の利用割合が最も高く、「旅行代理店（24.5%）」「市販のガイドブック（17.0%）」が続く（図表 14）。
- ・ 県外観光客の二次交通手段は「路線バス」の利用割合が 35.0%と最も高く、次いで「タクシー（25.5%）」「在来線（23.4%）」「市電（22.6%）」の順となっている（図表 15）。
- ・ 来鹿の動機は「知人からの口コミ（23.1%）」が最も多く、次いで「テレビ・ラジオ（17.9%）」「旅行代理店（12.8%）」が続く（図表 16）。また、その他の意見として「九州新幹線に乗ってみたかった」「子供からのプレゼント」などが挙げられた。
- ・ 自由意見として、鹿児島の食や景観、名所・旧跡への満足度の高さや、観光施設を評価する声は従来調査同様多かった。
- ・ また、「乗り継ぎの案内が見当たらない」などとの二次交通手段に対する声は依然として聞かれた。

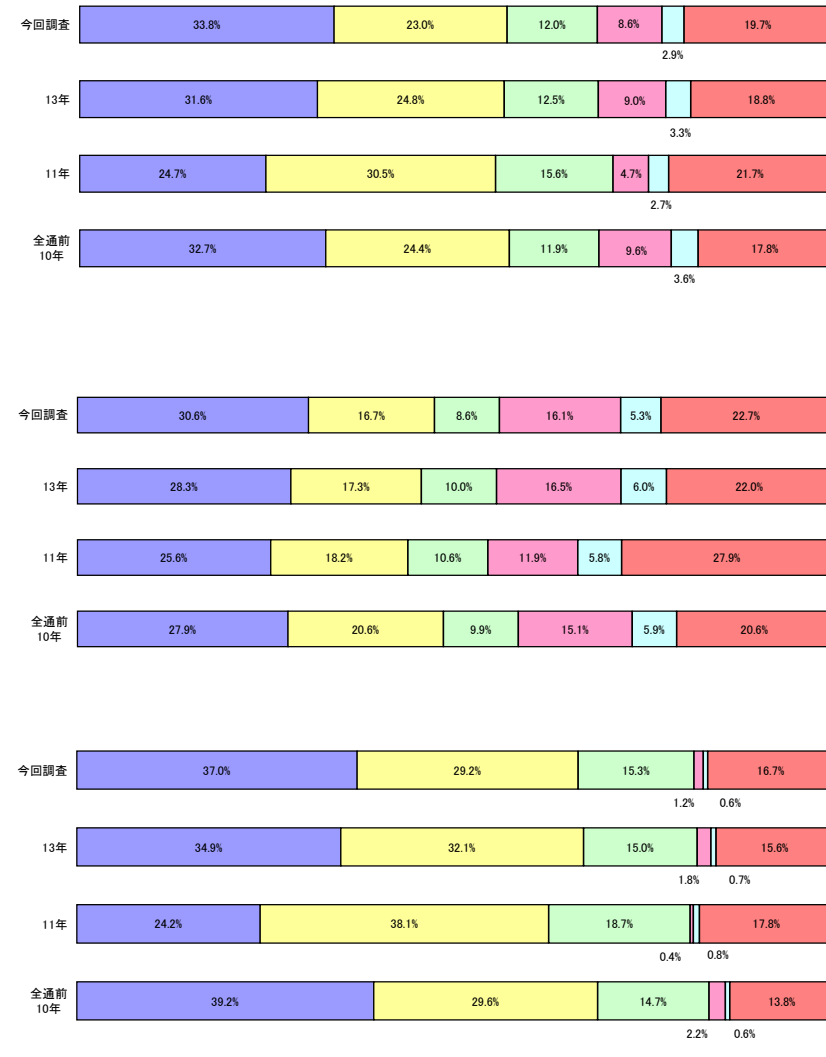
以上

【本件に関するお問い合わせ】 経済調査部（TEL 099-225-7491）

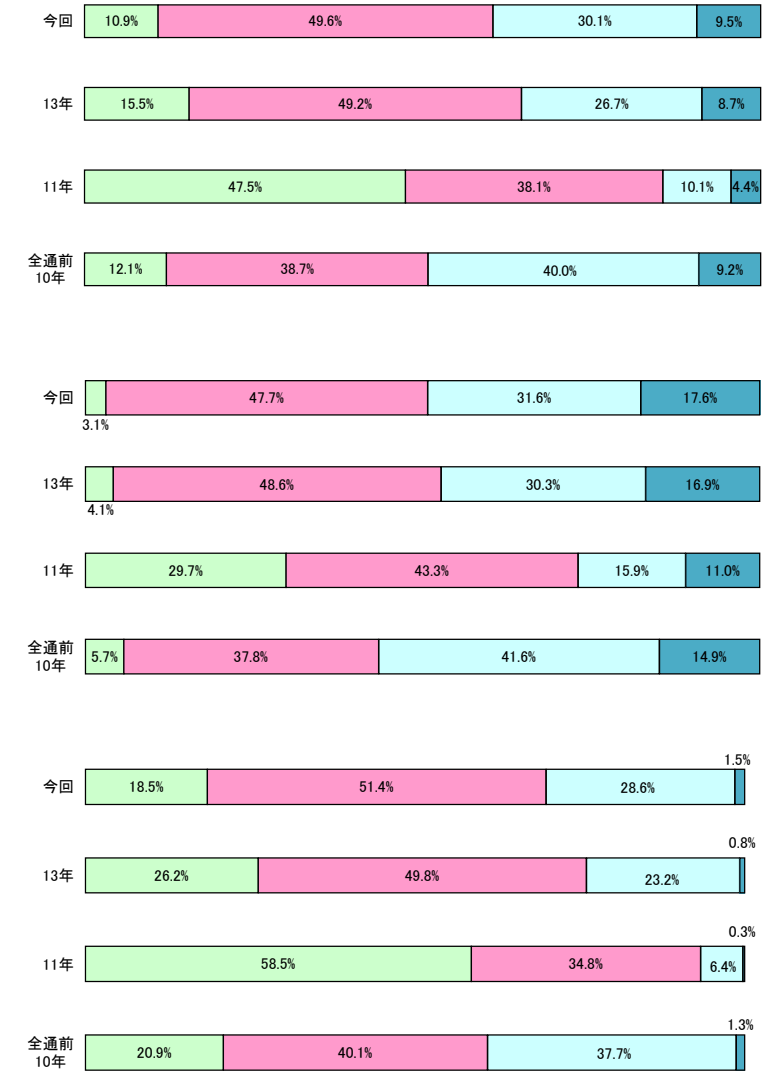
図表1 居住地別利用者割合



図表3 新幹線利用者の利用目的



図表5 新幹線利用者の利用頻度



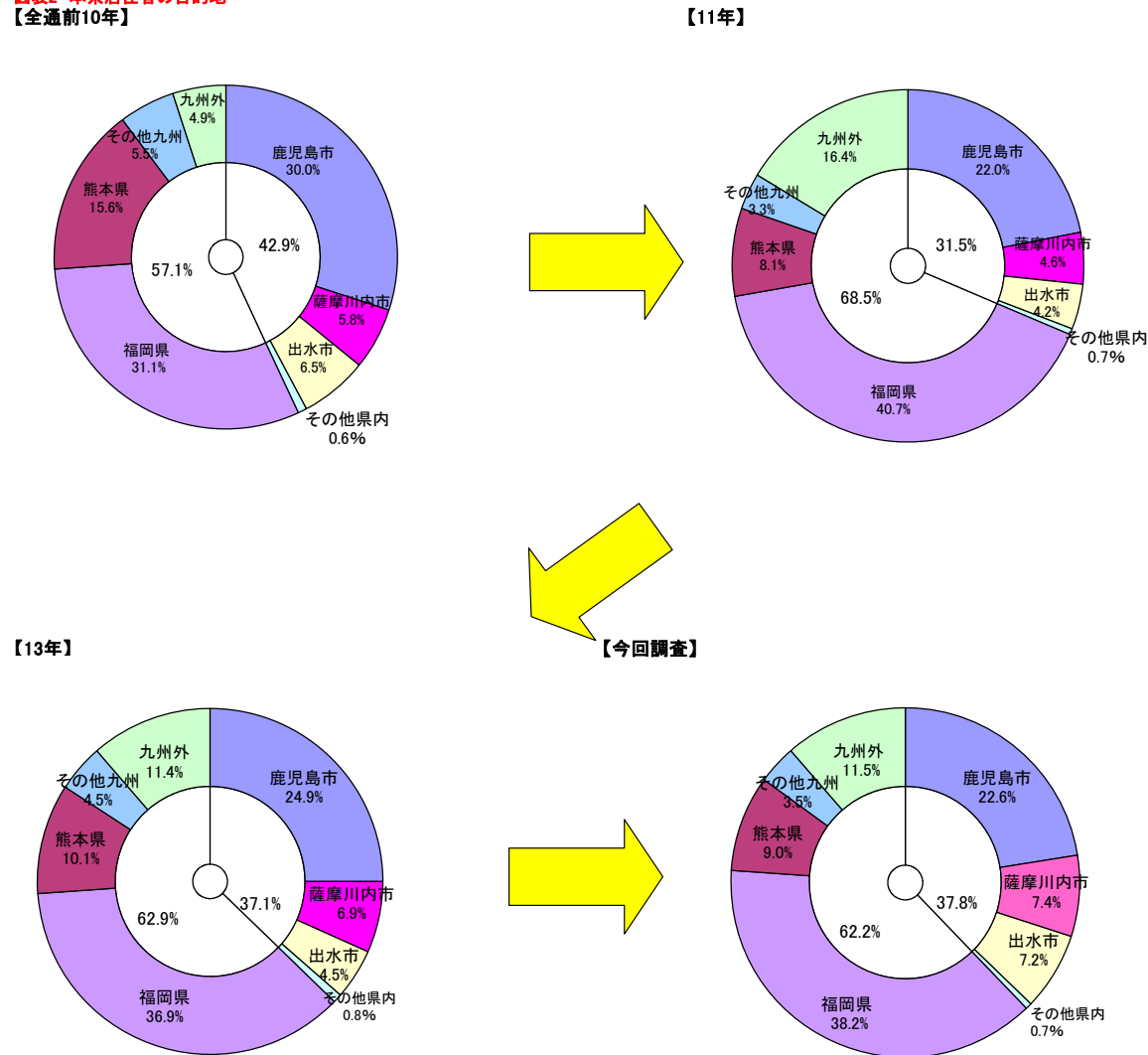
※山陽新幹線沿線居住者の利用割合 (単位: %)

	全通前10年	11年	13年	14年
山口県	0.5	1.3	1.0	0.8
広島県	1.1	4.1	3.0	2.0
岡山県	0.3	1.6	1.1	1.0
兵庫県	0.4	2.9	2.1	1.4
大阪府	1.0	3.8	2.9	3.7
5府県計	3.3	13.7	10.1	8.9

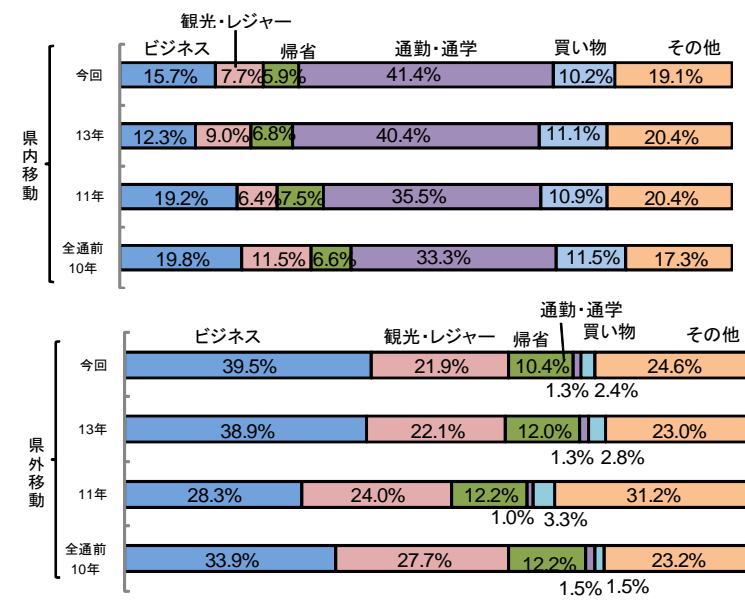
※目的地(本州沿線府県) (単位: %)

	11年	13年	今回
山口県	0.9	0.5	0.7
広島県	2.7	3.6	1.7
岡山県	1.6	0.8	0.9
兵庫県	2.3	0.7	0.8
大阪府	5.1	2.4	3.0
5府県計	12.6	8.0	7.1

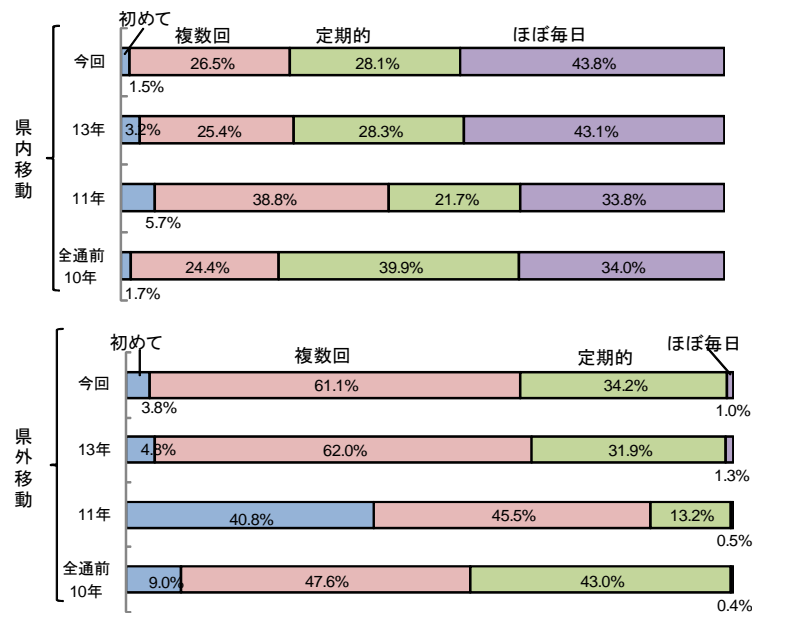
図表2 本県居住者の目的地



図表4 本県居住者の移動別利用目的



図表6 本県居住者の移動別利用頻度



図表7 他県居住者の日帰り・宿泊状況(利用目的別)

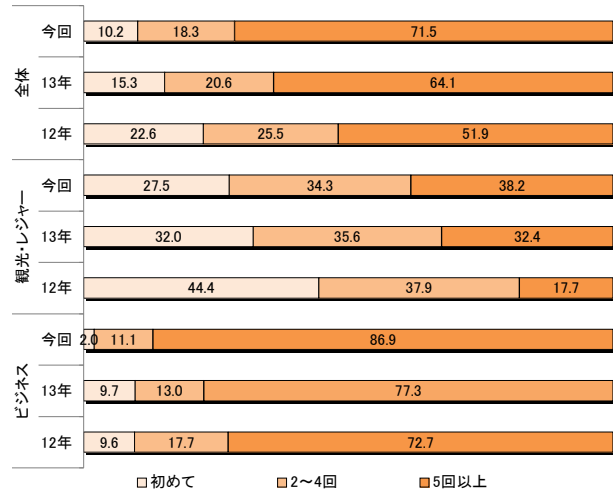
	有料宿泊				日帰り			
	全通前 10年	11年	13年	今回	全通前 10年	11年	13年	今回
全体	52.5%	56.3%	54.1%	54.8%	26.6%	20.5%	24.5%	25.5%
観光・レジャー	70.9%	81.0%	86.6%	84.5%	25.2%	16.5%	7.9%	12.0%
ビジネス	67.3%	66.3%	55.2%	62.0%	29.8%	31.3%	39.7%	35.0%

図表8 他県居住者の本県における消費額(利用目的別)

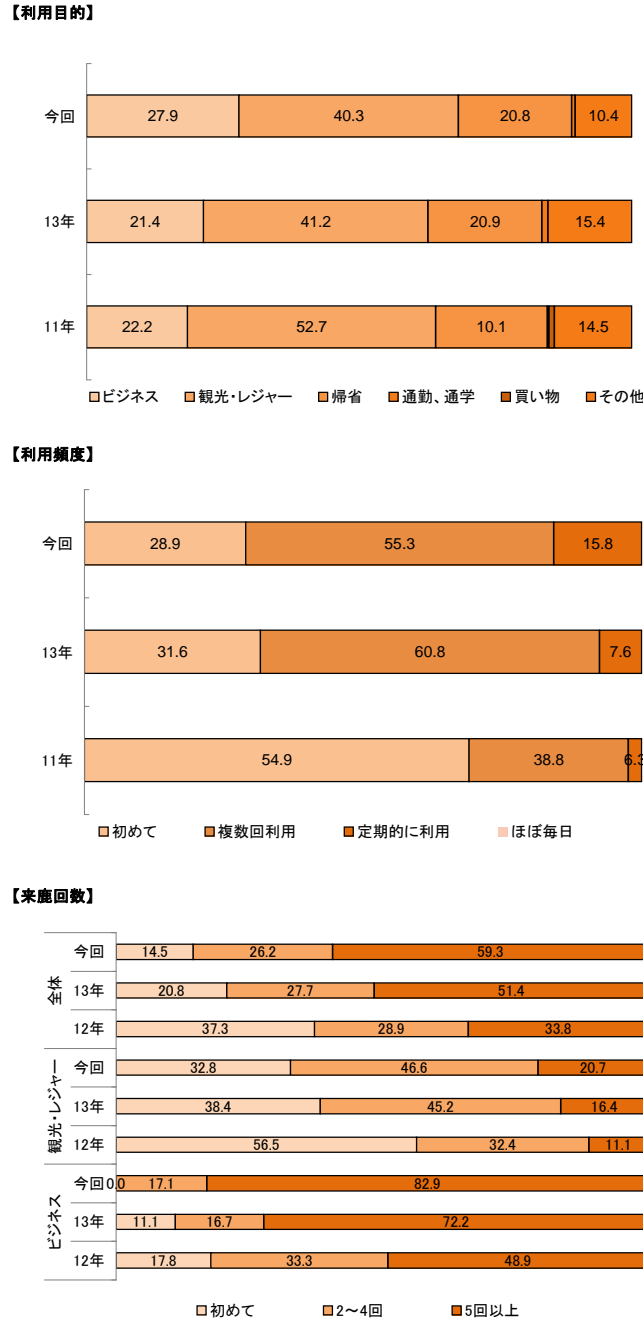
	(単位:円)				
	宿泊費	お土産・買い物費	飲食費	交通費	合計消費額
全体	8,759 (9,279)	5,703 (6,082)	5,867 (7,713)	3,390 (4,012)	23,719 (27,087)
観光・レジャー	14,926 (15,409)	9,642 (9,948)	6,550 (8,912)	5,836 (6,030)	36,953 (40,298)
ビジネス	6,515 (6,587)	2,341 (1,995)	6,070 (7,244)	2,113 (2,428)	17,040 (18,254)

注1) 下段の()内の金額は13年3月調査時の金額。
 注2) バック旅行の場合、バック料金に占める宿泊費を35%として試算。
 注3) 交通費は新幹線料金を除く。

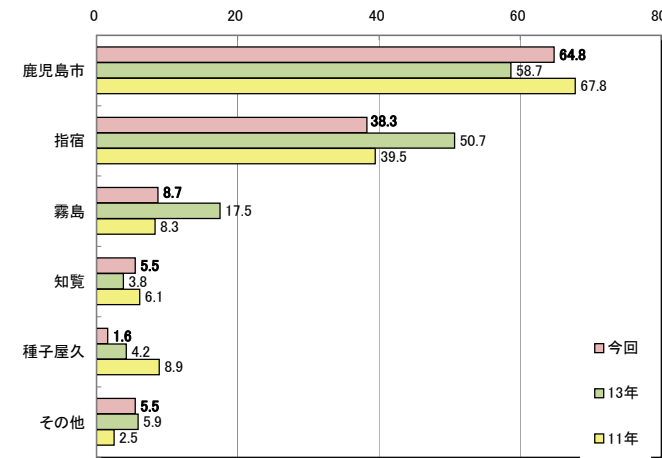
図表9 他県居住者の来県回数



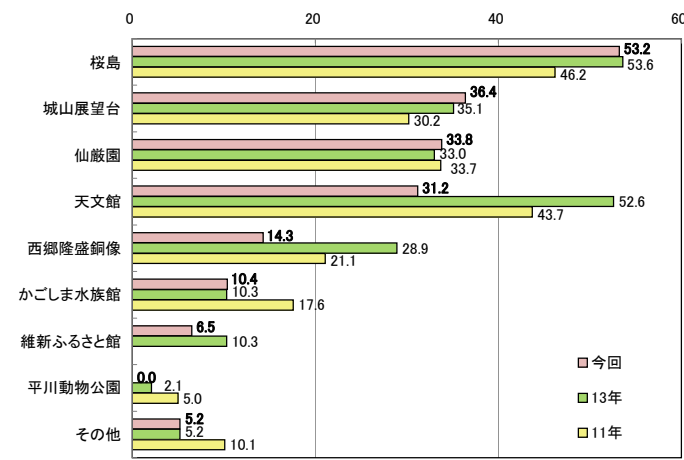
図表10 山陽新幹線沿線居住者の利用目的、利用頻度、来県回数



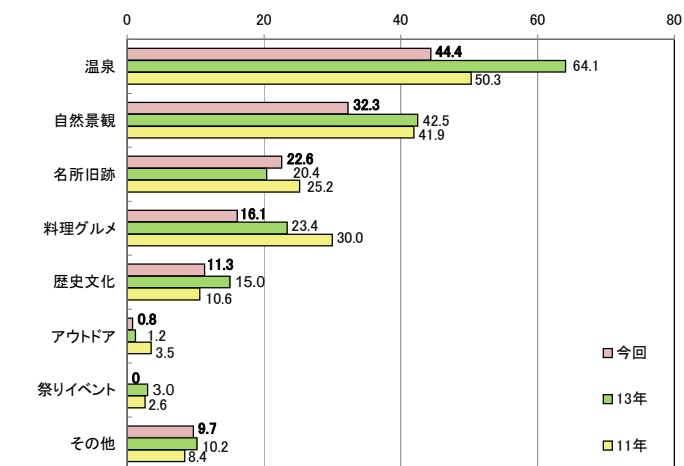
図表11 県外観光客の目的地(複数回答)



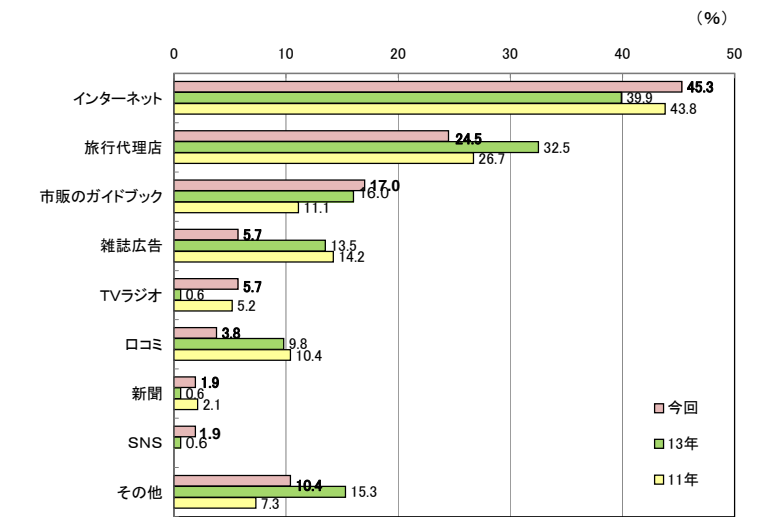
図表12 鹿児島市内を訪れた県外観光客の目的地(複数回答)



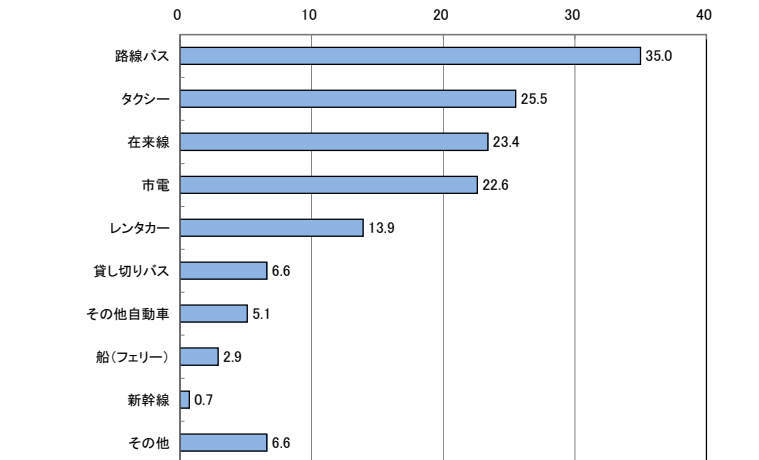
図表13 県外観光客の観光目的(複数回答)



図表14 県外観光客の情報収集手段(複数回答)



図表15 県外観光客の二次交通手段(複数回答)



図表16 初回来県者(観光・レジャー)の動機(複数回答)

